

CEL ホームページ

<https://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。下記のQRコードで読みとることもできます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

volume126
November 2020

特集

未来を創る
—新しい都市のかたち

2020 (令和2)年11月1日発行

発行

大阪ガス(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

金澤成子

企画・制作

熊走珠美

特集担当

前田章雄

編集人

日下部行洋

編集

(株)平凡社

アートディレクション
& デザイン

okamoto tsuyoshi +

校正

(株)アンデバンダン

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2020 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

コロナ禍に「1000倍返し！」

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所
所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko

TVドラマ『半沢直樹』最終回は、前作の42.2%に次ぐ、32.7%。令和最高視聴率の快挙を成し遂げました。前作との違いは、コロナ禍で世の中が「3密」を避けるなか、ドラマ自体が視聴者とのSNSを通じての「精神的な密」で成長し続けたということです。その結果、主人公の半沢が社会人の抱えるフラストレーションを代弁し、最終回の「1000倍返し！」に繋がったのではないのでしょうか。

官民ともに、コロナ禍の危機を乗り越えるべく、新しい当たり前をビルトインした新たな都市のかたちを創造していく必要があります。そのためにも、まずは自らがレジリエンス(変化に柔軟に適應する力)の高い組織体にトランスフォーメーションしなければなりません。

今号では、デジタル化に先行して挑戦してきた現場の事例を紹介しながら、持続可能な経済復興を目指すために、何が必要なかを考察しました。オンラインとオフラインの境界がなくなるアフターデジタル時代の到来で、これまでの都市のあり方そのものが根底から覆されました。ただし、その新しい都市も、デジタル技術を活用して、地域それぞれの強みや文化・歴史といったコアな魅力を再発見・伝承し、生活者をパートナーに、日本独自の新たな世界観をアップデートしていくことが重要です。

コロナ禍にあっても、企業は、既成概念を取り払い、多様化する生活者の視点で、問題の本質を見抜き、差別化されたブランド力や独自性を発揮して、新たな価値を創造していく必要があります。今号からスタートした「未来ブラリ」は、「女の欲望ラボ」と共同で、生活者の視点から少し先の未来を発見する企画です。コロナ禍の環境の変化を、悲観することなく、前向きに楽しむ女性の姿が印象的で、そこには、たくさんの新たな価値創造に繋がるヒントがあります。

「誇らしい日本」を次世代に繋ぐために、企業は変化に柔軟に適應し、生活者と共に持続可能な都市のかたちを創造し続けなければなりません。それこそが先駆者たちへの恩返し、そしてコロナ禍に「1000倍返し！」することなのではないかと思います。